



稲作情報



JA秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23-6556
 各営農センター
 金沢 ☎ 37-2124 大雄 ☎ 52-3665 横手 ☎ 32-8220 増田 ☎ 45-2035
 平鹿 ☎ 24-3110 十文字 ☎ 44-3101 大森 ☎ 26-4155 雄物川 ☎ 22-2266
 秋田県農業共済組合 県南支所 ☎ 0187-63-1066
 農産課(農作・畑作・果樹・損防・収入保険) ☎ 0187-66-9112
 資産課(園芸・建物・農機具) ☎ 0187-66-9111
 家畜課(家畜) ☎ 0187-66-9113
 秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32-1805
 横手市農林部 農業振興課 ☎ 32-2112・32-2113

栽植密度70株植えて茎数確保を!! 保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保

いよいよ本田作業に入ります。ゆとりを持って計画的な田植え作業と保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保に努めましょう。

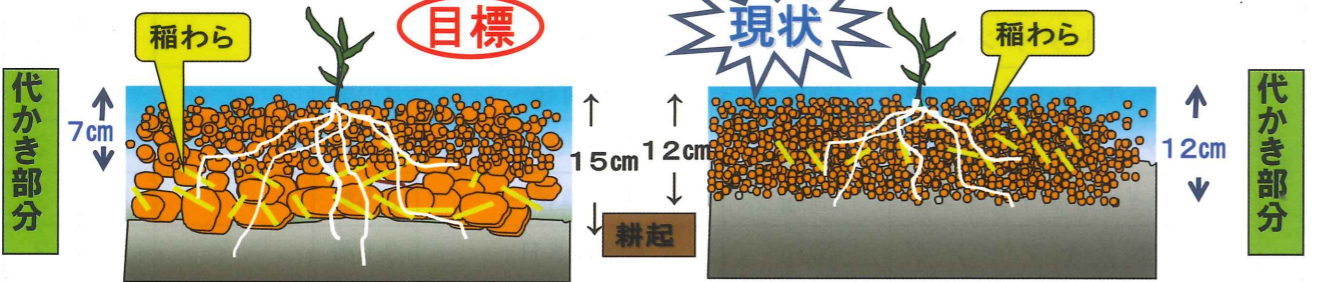
ふるさと稲作ほっとLINE QRコード
 友だち登録お願いします!



1. 代かき作業

代かき作業は、田植えの前に耕起した水田に水を入れて行う碎土均平作業です。できるだけ浅水状態にして作業を行い、田面に高低差が生じないように行いましょう。
 *水量が多すぎる場合、圃場の均平がわかりにくいため作業がうまくいきません。また、わら・稲株等のすき込みが難しくなります。
 *鏡のような過度の代かきは作土全体が泥状になり、土壌還元促進や表層剥離の原因となります。作土の下部は軽く土塊が残るくらいに仕上げましょう。

◆根を深く張らせる環境づくり



目標→耕起は耕深を確保し整地代かきは深くしない 現状→浅く耕起し深く代かきしてしまっている

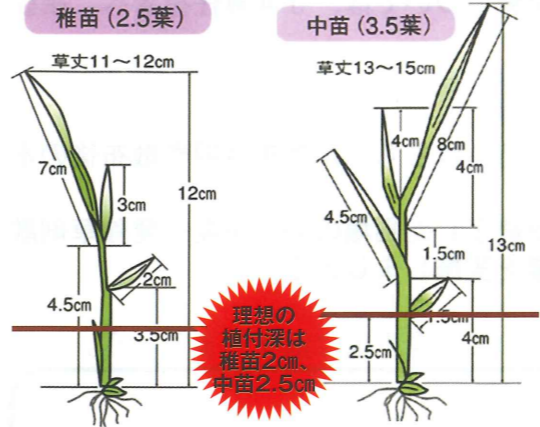
【産地の環境負荷低減対策】マイクロプラスチック流出防止対策実施のお願い

稲作の省力化を目的に基肥重点型肥料(一発肥料)が普及している一方で、使用後の肥料の被膜殻(マイクロプラスチック)が圃場から海洋等に流出することによる環境への影響が懸念されています。環境負荷低減を目的としたマイクロプラスチック流出対策を産地全体で実施して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
 *実施方法: 水稲作付圃場の排水側に、網等の設置をお願いします。
 *実施時期: 田植え前や中干し前、刈り取り前等、大量に排水する作業前の実施をお願いします。
 *設置に関する相談等は、JA各地区営農センターまでお願い致します。

2. 田植え・栽植密度

安定した収量・品質を得るには、**目標茎数を早期に確保することが大切です。**
 近年管内の栽植密度は、全体的に「疎植」の傾向にあります。「あきたこまちRやサキホコレ」は偏穂数型の品種ですが、4年連続田植え後の低温により茎数不足となっており、穂数を確保できず収量低下のリスクが高くなっています。安定した収量を確保するためには**70株/坪の栽植密度が理想**です。高地力田や側条施肥等で初期生育を確保しやすい圃場は、50~60株/坪でも穂数を確保できる場合がありますが、しふくみのり等の晩生品種は50株では登熟が遅れるため、しっかり実らせるために70株をお奨めします。

- *低温・強風の日に田植えを行うと植え傷みを起こし、活着や初期生育の遅れにつながります。
- *田植えは最高気温20℃前後の温暖な日に行ない、15℃以下の肌寒い日や強風の日は避けて天気の回復を待ちましょう。
- *田植え後の圃場を見ると、一株当たり植え込み本数が多い傾向が見られます。植え込み本数が多いと初期分けつが抑制されますので、**植え込み本数中苗で平均3~4本/株、稚苗で平均4~5本/株**となるよう調整しましょう。
 (田植え作業スタート時に実際に植え込まれた本数を確認しましょう。)
- *植え付け深さは、活着・分けつに影響します。極端な浅植は浮き苗や除草剤の薬害が起きやすく、また深植は分けつを抑制しますので、**植え付け深さは稚苗で2cm、中苗で2.5cm**としましょう。(3cm以上の深植えにならないように!)



植込株数/坪 株/m ² 株間 (cm)	50株/坪 15.2株/m ² 21cm	60株/坪 18.2株/m ² 18cm	70株/坪 21.2株/m ² 15cm
①目標穂数: 380~440本/m ² 必要1株穂数	25~30本/株	21~25本/株	18~21本/株
②目標総穂数: 28~31千粒/m ² 穂数確保の難易度	難 穂数不足	←	→ 易 穂数確保
③株数を多くすると大粒傾向 千粒重確保の難易度	やや難 1穂数多すぎ	←	→ 易 適正穂数確保
④基肥窒素量 (kg/10a) 穂数確保の難易度	基肥N-5	難 穂数不足	→ 易 穂数確保
	基肥N-7	易	→ 易 倒伏注意

栽植密度 70 株/坪が穂数・穂数確保が楽で、大粒傾向にしやすい (図: 食味ランクアップマニュアルより引用)

3. 田植え後本田水管理

- 苗の生育状態や気象条件を考慮し、最適な水管理を行いましょう。
- *活着するまで水深4~5cm程度の水深(苗が水没しない程度の湛水)を保ち(保温的水管理)、発根・活着を促進します。
 - *活着を確認したら分けつを促進するため、2~3cm程度の浅水管理として水温と地温を高め、日気温差を大きくします。このため、できるだけかん水は水温の低い早朝に行いましょう。また、水の冷たいところでは温水チューブを利用して水温の上昇に努めましょう。
 - *初・中期一発除草剤散布後の処理層形成後、生育が抑制されるほど還元(メタンガスの発生)が起こった場合は夜間の落水を1~2日行い軽くガス抜きを行いましょう。

4. 苗いもち対策

水田に放置された補植苗は葉いもちの伝染源となります。いもち病は予防が鉄則ですので、補植は田植え後早めに行い畦畔・本田等へ放置せず直ちに埋没処分しましょう。
 「葉いもちの発生源」



◆ カメムシ対策 ◆

雑草地は、カメムシ類の生息地と繁殖地になります。管内の主要となっているアカスジカスミカメは卵で越冬し、6月上旬頃からふ化し始めることから、ふ化前に草刈りを実施することで発生密度を低下させることが可能です。畦畔・農道や転作圃場では、5月頃から計画的に草刈りや耕耘・除草剤散布等の雑草対策を徹底し、カメムシの密度抑制に努めましょう! 非選択性除草剤散布の際は、水稻や周辺作物に飛散しないよう注意してください。

5. いもち病・初期害虫防除薬剤

近年、1箱当たりの薬剤の量を減らして「いもち病」が発生するケースが多くなっています。
安定した効果・持続が得られるよう登録の散布量と使用方法を確認し、均一散布に努めましょう。

薬剤名	主要対象病害虫名	散布量	使用時期	使用回数	成分数
ブーンパディート箱粒剤 (特別栽培米使用可)	いもち病・穂枯れ(ごま葉枯病菌)・ イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ フタオビコヤガ・ニカメイチュウ・イナゴ類	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	1回	2
デジタルメガフレア箱粒剤	いもち病・ニカメイチュウ・ イネミズゾウムシ・ イネドロオウムシ・カメムシ類	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	2
稲名人箱粒剤	いもち病・穂枯れ(ごま葉枯病菌)・ イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ フタオビコヤガ・ニカメイチュウ・イナゴ類	50g/箱	播種前～移植当日	1回	2
ルーチンブライト箱粒剤	いもち病・穂枯れ(ごま葉枯病菌)・イネ ミズゾウムシ・イネドロオウムシ・フタオビコ ヤガ・ニカメイチュウ・イナゴ類・紋枯病	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	3

※上記以外の箱粒剤の使用方法や高密度播種の場合の使用量については、JA専任指導へご相談ください。

6. 雑草防除

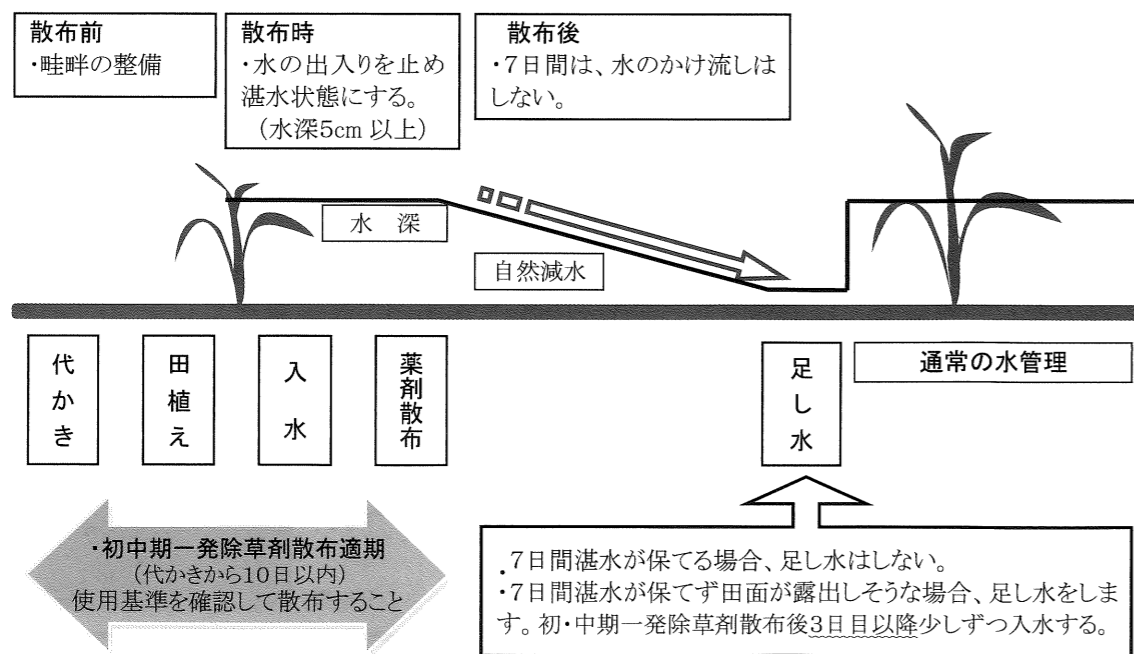
初・中期一発除草剤の効果をもとめるためには、圃場の水持ちはもちろん散布時期や散布後の水管理も重要となります。

田植え期間が1週間以上かかる場合は、初期に田植えが終了した圃場の初・中期一発除草剤散布を進めながら計画的に残りの圃場の代かき、田植え作業を実施しましょう。

* 粒剤は均一散布を心がけ、散布ムラや重複散布がないようにしましょう。

* カナ・表層剥離・藻類の発生は除草剤の拡散を妨げますので、発生前に散布しましょう。

★初・中期一発除草剤散布と水管理のポイント★



初・中期一発除草剤の散布に当たっては、水深5cm以上の湛水状態で散布し、除草剤の処理層が形成される3日間は田面を露出させないことが基本です。除草剤の残効を長く保つためには、水を切らさず湛水管理を継続することが重要です。田面の露出した場所は除草剤の処理層が壊れ、残草のリスクが高まります。

◆主な水稻初期及び初・中期一発除草剤(「ふるさとecoらいす」は、初期剤は田植前に使用できません。)

区分	除草剤名	散布量・薬量 (10a)	使用時期	ノビエ 効果	使用ポイント	直播 登録	成分 数	
初期剤	ソルネット粒剤	1kg	移植時～	1.0葉	初中期一発剤 と体系処理 ※移植前の使用 はecoらいす 対象外(移植 同時処理又は 移植直後散布 は可)		1	
	エリジャンジャンボ・乳剤	300g/300ml	移植直後～	1.0葉			1	
	メテオ粒剤	1kg	移植時～	1.0葉			1	
	ピラクロン粒剤	1kg	移植時～	1.5葉		○	1	
初 中 期	豆つぶ	プライオリティ豆つぶ250	250g	移植直後～	3.5葉	○	2	
		アカツキ豆つぶ250	250g	移植後3日～	3.0葉	○	3	
	粒 剤	ワザアリ粒剤	1kg	移植直後～	3.0葉	○	2	
		ガツントZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉	○	2	
		プライオリティ粒剤	1kg	移植時～	3.5葉	○	2	
		アカツキ粒剤	1kg	移植直後～	3.0葉	○	3	
		カイリキZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉	特別栽培米使用可	○	3
		シグナス粒剤	1kg	移植時～	3.0葉	○	3	
		ゼータタイガー粒剤	1kg	移植時～	3.0葉	○	3	
		アッパレZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉	○	3	
	剤	カウントダウン粒剤	1kg	移植時～	3.5葉	○	3	
		ジャンボ	ワザアリジャンボ	300g	移植直後～	3.0葉	○	2
			ガツントZジャンボ	200g	移植後3日～	3.5葉	○	2
			プライオリティジャンボ	250g	移植直後～	3.5葉	○	2
			アカツキジャンボ	250g	移植後3日～	3.0葉	○	3
			カイリキZジャンボ	300g	移植後3日～	3.0葉	特別栽培米使用可	○
シグナスジャンボ			300g	移植後1日～	3.0葉	○	3	
ゼータタイガージャンボ			300g	移植後3日～	3.0葉	○	3	
アッパレZジャンボ	400g		移植後3日～	3.0葉	○	3		
発 粒	カウントダウンジャンボ	400g	移植直後～	3.5葉	○	3		
	ワザアリ楽粒	250g	移植直後～	3.0葉	○	2		
	サキガケ楽粒	250g	移植直後～	3.0葉	○	3		
	フロアブル	ガツントZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉	○	2	
		プライオリティフロアブル	500ml	移植直後～	3.5葉	○	2	
		アカツキフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉	○	3	
		カイリキZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉	特別栽培米使用可	○	3
		シグナスフロアブル	500ml	移植後1日～	3.0葉	○	3	
アッパレZフロアブル		500ml	移植後3日～	3.0葉	○	3		
ゼータタイガーフロアブル		500ml	移植後3日～	3.0葉	○	3		
カウントダウンフロアブル		500ml	移植時～	3.5葉	○	3		

本田における農薬使用機会が増えますので周辺作物への飛散(ドリフト)に注意してください。農薬使用に当たっては、安全かつ適正に使用しましょう。